

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	リハビリテーション概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 6,7限他	教室名	401他
担 当 教 員	藤本 光輝	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
・リハビリテーションの概念や主要分野について理解できる。 ・ICF(国際生活機能分類)を理解し、生活機能を包括的に捉えられる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験で100%評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
授業は資料を配布し、PCスライドで授業を行う。また適宜小テストを行う。 テキスト:大川弥生「生活機能とは何か ICF:国際生活機能分類の理解と活用」東京大学出版会						
《授業外における学習方法》						
毎回の授業内容の復習						
《履修に当たっての留意点》						
私たちが将来携わるリハビリテーションとは本来どういうものなのかを自問自答しながら取り組むこと。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの概念・目標について説明できる		配布資料 PCスライド	事前学習として該当頁の通読
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念・目標について学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際障害分類(ICIDH)について説明できる		配布資料 PCスライド テキスト	事前学習として該当頁の通読
		各コマにおける授業予定	国際障害分類(ICIDH)について学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」について説明できる		配布資料 PCスライド テキスト	事前学習として該当頁の通読
		各コマにおける授業予定	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」について学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」に關与する因子について説明できる		配布資料 PCスライド テキスト	事前学習として該当頁の通読
		各コマにおける授業予定	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」に關与する因子について学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」と廃用症候群の關係について説明できる		配布資料 PCスライド	なし
		各コマにおける授業予定	ADL上、問題となる廃用症候群と「生活機能」の關係について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際生活機能分類(ICF)における「生活機能」と嚥下障害の関係について説明できる	配布資料 PCスライド	なし
		各コマにおける授業予定	ADL上、問題となる嚥下障害と「生活機能」の関係について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの主要分野について説明できる	配布資料 PCスライド	事前学習として該当頁の通読
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの主要分野(社会・教育・職業・地域)について学ぶ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションにまつわる多職種連携について説明できる	配布資料 PCスライド	なし
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションにまつわる多職種連携についてグループで学ぶ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			